

第1回「観光カリスマと観光庁の懇談会」議事概要

1. 日時

平成26年12月4日（木）15時00分～17時30分

2. 場所

中央合同庁舎3号館8階 観光庁国際会議室

3. 出席者

観光カリスマ：

大西雅之氏、ロス・フィンドレー氏、渋川恵男氏、中澤敬氏、加藤文男氏、吉川真嗣氏、金井啓修氏、刀根浩志氏、平田克明氏、若松進一氏、鶴田浩一郎氏

観光庁：

久保長官、山口次長、蝦名審議官、吉田観光地域振興部長ほか

4. 議事概要

観光庁より、最近の観光の状況を説明。観光カリスマの皆様からは日頃の観光地域づくりの取組を説明。その後意見交換を実施。主な意見は以下のとおり。

○大西雅之氏（顧客本位の先進的な旅館経営を実践して阿寒湖温泉を再生）

- ・ 人材育成は難しく時間もかかる。一定期間、力のある人材をわが町に迎え入れる際には人件費が必要。独自財源確保も検討中だが国の支援も必要。

○ロス・フィンドレー氏（北海道ニセコ地域の夏の体験観光の魅力を付加することで通年型観光リゾートとしての価値をあげることに貢献）

- ・ 「世界一の雪」のプロモーションが成功し、北米やヨーロッパからの旅行者が増えているが、成田→千歳への便が減りサービス低下。一方、地域のサービス向上のためには町の財源確保は重要、現在検討中。

○渋川恵男氏（会津若松市七日町通りに大正時代のまちなみを再生）

- ・ 商人文化を記す貴重な歴史的建築などの文化財を保護・リノベーションしたい。そのためには行政からの支援がどうしても必要。

○中澤敬氏（古い街並みの再現や街並みデザインの統一など「歩きたくなる観光地づくり」を推進）

- ・ 「観光立町宣言」を行い、これまでいろいろ進めてきたが、インバウンドは1%程度にとどまっている。これをどうしていくかが課題。

○加藤文男氏（「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」の初代駅長として、計画の立案から、開設後の運営管理に取り組む）

- ・ 道の駅を拠点に観光振興、防災＋コンビニ機能も付加して進めている。
一方、インバウンドの効果を地方に回す時に圧倒的に不足しているのが情報。旅行ガイドブック等にもっと掲載するように支援を。

○吉川真嗣氏（町屋の歴史的価値と魅力を全国に広め、多くの観光客が訪れるなど村上市の活性化に貢献）

- ・ 大きな事業費をかけずに市民の力により「黒塀プロジェクト」により空き屋を再生してきた。少額でも良いので行政から支援してもらえるような制度が欲しい。

○金井啓修氏（個性的な宿づくり、まちづくり全体を考えた集客の仕掛けづくりに取り組み、有馬温泉の住民の意識改革に貢献）

- ・ インバウンドの宿泊客が急激に増加していることによる受入側の課題もあるが、更に進めていきたい。

○刀根浩志氏（農山漁村部の潜在的な価値の再認識等による体験交流型観光の定着を図るなど、地域の活性化に貢献）

- ・ マーケティングやビジネス化の支援をしているが、観光のホームドクターを目指している。行政の観光担当者が頻繁に異動してしまうのが課題。

○平田克明氏（「平田観光農園」において、地域と協力した農産物加工品を積極的に販売するなど都市農村交流を実践）

- ・ 高速道路尾道松江線が全線開通する機会を活かして観光客増を図りたい。
マスコミとのコミュニケーションが大事。インバウンド対応として線的にWIFI 整備を進めて欲しい。

○若松進一氏（夕日をコンセプトにしたまちづくりに従事し、他の市町村にない話題を呼ぶ仕掛けをつくり、地域の活性化に貢献）

- ・ 観光カリスマとして10年近く奮闘してきた。全国の観光情報のデータベース化が必要。観光庁は観光振興のため、国民運動の旗振り役をもっと行うべき。

○鶴田浩一郎氏（別府温泉の各地区を束ねたイベントを実施、各地区の自主性を育て、別府温泉の活性化を先導）

- ・ 温泉地域はリーマンショック後、破綻処理も落ち着き、再生されてきた。今後は組織づくりが課題。

以上